



iwork-pro.jp

コミュニケーション広報ツール

2024

10

# アイ・ワーク News

iwork News Vol.18



## iworkの“23期”

(2023.9-2024.8)

23期の決算期を8月に終え、24期が9月から始まり既に1ヶ月が経ちました。iworkニュースでは、経営のことをあまり紹介してないので、少し開示します。

“リーダーしっぽ”  
代表取締役社長 福原  
T.FUKUHARA



## 体制

23期は、22期に続き職員を一人採用して、全体で9名となりました。在宅勤務が可能であることと、デザインとweb制作のスキルを身につけていることを条件に募集(ハローワークのみ)し、良い人材に巡り合っています。



## 売上

売上は、最盛期の98%くらいまで回復しています。

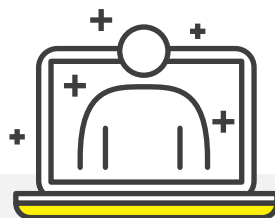
従来の得意先からの回復に加えて、機械製造業、サービス業、伝統産業、医療法人、行政といったところでスポット的に新しい仕事生まれています。直近では商店街広報もあります。動画、Web、企業ロゴ、展示会ブース、社史、と制作媒体も多様化してきました。期待の大阪万博などの大型イベントは、受注の気配すらありません。東京オリンピックもそうだったが、トリクルダウンは幻想でした。



## 自社をよりよい企業にする

23期は、良い流れがくれた1年だったと言えます。協業によるネットワークも成果を上げ始めました。背景には、売上の伸長もありますが、「自社をより良い企業にするため」の先を見据えた5カ年計画(2023/9~2028/8)が座っています。

コロナ前までは、ある程度の売上があり、このまましばらくは大丈夫といった雰囲気支配的で経営計画も中々浸透が難しかったところがありました。コロナ禍を得て、忍耐強くなった職員と一緒に練り上げたこの5カ年計画を、24期も地道に遂行していきます。



## 創業 30周年

iworkも法人化(2001年11月16日)から数えて24年、創業からを加えると今年で28年の経営年数を重ねたこととなります。2年後の2026年11月には創業30年を迎えることとなります。iworkの30年をデザイン業界の特長と絡めて記録し、公開しようかと、検討しているところです。



# 令和 プロレスの 魅力



プロレスファン3年生  
デザイナー 田部  
M.TABE

毎度、趣味であるプロレス観戦についてあれやこれやと語っております。今回はファン歴3年の私が感じたプロレスの魅力についてお話ししたいと思います。

「プロレスは生き様を見せる場所」——これはとある双子レスラーの兄の言葉です。

みなさんはプロレス観戦にどんなイメージをお持ちでしょうか。以前の私のように、プロレスファンは「荒々しい男性ばかり」というイメージをお持ちの方が多いでしょう。

友人にプロレスの魅力について聞かれるとこう答えます。

プロレス観戦は(音楽の)ライブやフェスに行くのと同じ。レスラーが発するメッセージに共感し熱くなる。コール&レスポンスあり、モッシュやダイブのような場外乱闘あり、その場でしか味わえないリアルと皆で作り上げる一体感が何より楽しい、と。

近年はスポーツ観戦全般において、関係者の尽力やSNS等の普及の影響か、以前より敷居は下がっているように感じます。野球の〇〇女子、サッカーのにわかサポーターなど老若男女が気軽に楽しめるものとして広がりました。

これはプロレス界も同じ。ファン層は未就学児を連れた家族連れからシニア、若年層のカップル、女性グループ、男性おひとりさま等、さまざまです。

ところで私がプロレスファンだというと、実家の母は「アイドルみたいに追っかけているのでしょうか」と言います。もちろん、そういったファンの方もいますし否定するわけ

ではありません。楽しみ方は自由。ですが、母の場合は「女性=追っかけ」という固定観念によるもので理解できません。腕を振り上げ大声で、全身全霊でスポーツを楽しむ姿と女性が結びつかないのでしょうか。

選手のイメージはどうでしょう。

以前の私は、いわゆる「昭和のプロレスラー」のように荒々しく乱暴に暴れ回る近づき難い存在だと思っていました。

前述の双子レスラーは全く違います。

試合はもちろん激しく、元力士ならではのパワーと大きな体格を活かした技や、髪を振り乱し闘志あふれる表情も圧巻。一方、リング外では皆に愛される「良い人」のお手本のような存在。街で声をかけられることも多いそうで、老若男女が親しみやすい人柄そのもの。

例えば、彼は無類のスイーツ好き。タイトルマッチなど大事な試合に勝利すると、試合後にリング上でスイーツを食べるのがお約束。目尻を下げ、うれしそうに思いきり味わいます。時には対戦相手に「おすそ分け」することも。彼独自のキャラクターが愛される一因なのです。

プロレスラーはありのままに生き様を見せつける。その姿に魅了され、ファンもまたイメージや形式にとらわれずそれぞれの方法で熱狂し楽しむ。これぞプロレスの魅力。

プロレスを通して感じた多様性。いやあ、プロレスって本当にいいものですね。

※あくまでもプロレスファン3年生の見解です。